

授乳・離乳の支援ガイド（試案）

平成18年12月20日

「授乳・離乳の支援ガイド」策定のねらい

離乳食の開始・進行については、平成7年に出された「改定 離乳の基本」に基づき、保健・栄養指導の場面や育児雑誌等において幅広く情報提供が行われているが、すでに10年が経過し、先般公表した「平成17年度乳幼児栄養調査結果」等最新の知見を踏まえ、その内容について見直しを行うこととした。

また、授乳については、従来母乳育児の推進の観点からその支援が進められてきたが、出産直後の不安が高く、その訴えも多様であること、離乳食の開始・進行との関わりも深いことなどから、あわせてその適切な支援について検討を行うこととした。

特に、授乳期及び離乳期は母子の健康にとって極めて重要な時期にあり、母子の愛着形成や子どもの心の発達が大きな課題になっている現状にあっては、それらの課題への適切な対応が求められている。

このため、授乳、離乳の支援に当たっては、親子双方にとって、慣れない授乳、慣れない離乳食を体験していく過程をどう支援していくかという育児支援の観点も欠かすことができない。

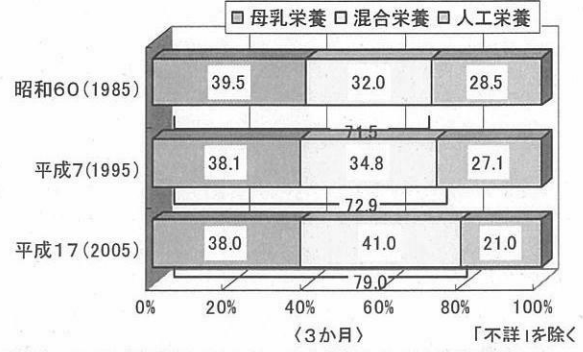
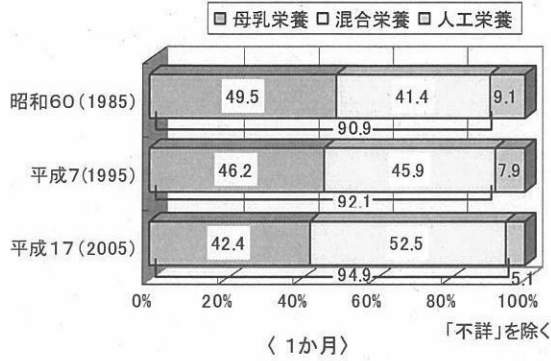
そこで、「授乳・離乳の支援ガイド」の策定に当たっては、授乳・離乳への支援が、①授乳・離乳を通して、母子の健康確保とともに、親子の関わりが健やかに形成されることが重要視される支援、②乳汁や離乳食といった「もの」にのみ目が向けられるのではなく、一人一人の子どもの発達が尊重される支援を基本とするとともに、③妊産婦や赤ちゃんに関わる保健医療従事者において、望ましい支援のあり方に関する基本的事項の共有化が図られ、④授乳や離乳への支援が、健やかな親子関係の形成や子どもの健やかな成長・発達への支援としてより多くの場で展開されることをねらいとした。

また、本研究会においては、産科医師、小児科医師、助産師、保健師、管理栄養士、さらに口腔機能（歯科医師）やアレルギーの専門家などが参画し、それぞれの専門領域から集約される知見に基づき、検討が進められているが、それぞれの施設や専門領域において求められる支援内容は個々の領域で特徴を有するものであり、そうした支援の充実にもつながる基本的事項について、本支援ガイドに盛り込むこととした。

I 授乳編

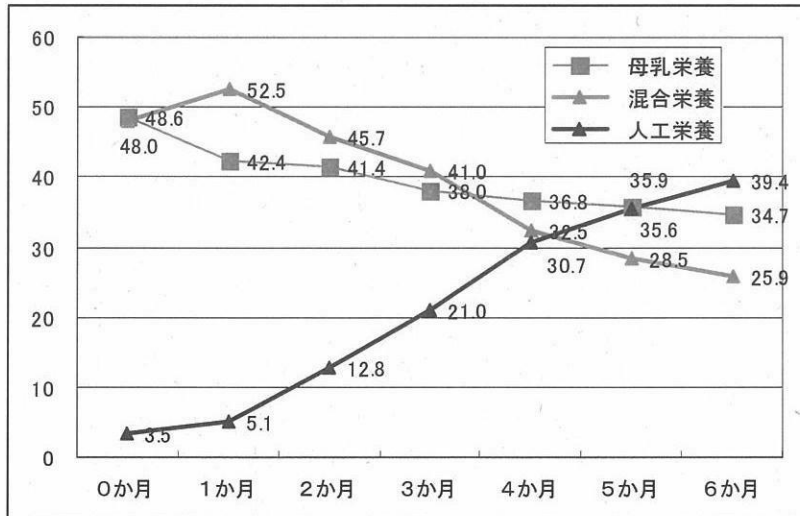
1 授乳に関する現状

● 栄養方法の推移



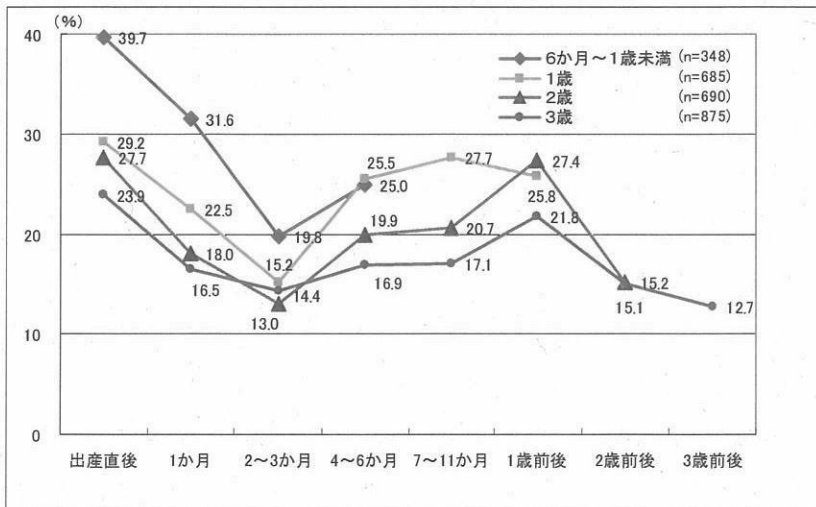
資料：厚生労働省「平成17年度乳幼児栄養調査」

● 授乳期の栄養方法（月齢別）



資料：厚生労働省「平成17年度乳幼児栄養調査」

● 授乳や食事について不安な時期



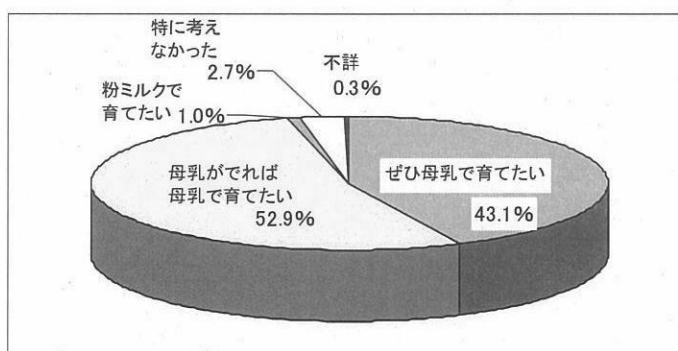
資料：厚生労働省「平成17年度乳幼児栄養調査」

●授乳について困ったこと

内容	総数 (n=2,548)	1か月時の栄養法別 (%)		
		母乳栄養	混合栄養	人工栄養
		(n=1,081)	(n=1,337)	(n=130)
母乳が不足ぎみ	32.2	20.1	44.6	6.9
母乳が出ない	15.5	5.7	19.4	56.9
外出の際に授乳できる場所がない	14.7	18.4	12.9	1.5
赤ちゃんがミルクを飲むのをいやがる	11.4	14.2	10.0	2.3
母親の健康状態	9.6	9.9	9.0	13.1
赤ちゃんの体重の増えがよくない	9.4	8.6	10.3	7.7
赤ちゃんが母乳を飲むのをいやがる	8.4	3.8	11.9	13.8
授乳が苦痛・面倒	7.8	5.6	9.4	6.9
母親の仕事(勤務)で思うように授乳ができない	4.2	4.3	4.7	0.8
相談する人がいない(場所がない)	1.6	1.1	1.7	3.8
特になし	30.5	41.3	22.0	21.5

資料：厚生労働省「平成17年度乳幼児栄養調査」

●母乳育児に関する妊娠中の考え



資料：厚生労働省「平成17年度乳幼児栄養調査」

●母乳育児に関する出産施設での支援状況と栄養方法

支援内容	出産施設*で支援があったか		
	はい	いいえ	不詳
出産後から母子同室だった	17.3	81.8	0.9
出産後30分以内に母乳を飲ませた	32.4	66.6	1.0
欲しがる時はいつでも母乳を飲ませた	52.9	46.2	0.9

* 病院、診療所、助産所で出産した者(n=2,706)

資料：厚生労働省「平成17年度乳幼児栄養調査」